

ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、展示や教育プログラムの実施だけでなく、高い専門知識を有する研究者による、世界レベルの調査研究活動を行います。このコーナーでは、インタビューを通じて研究者の仕事や、その素顔を紹介していきます。



主任 研究員

く さ か そ う い ち ろ う
日下 宗一郎

1982年岡山県生まれ。京都大学大学院理学研究科で博士課程を修了した後、京都の総合地球環境学研究所で研究に従事。2015年4月に着任。専門は自然人類学。人骨を分析することで当時の食性や移動を明らかにする。

沈黙の古人骨は、雄弁に語り始める。

Q まもなく開館するミュージアム。常設展の中で展示室8「生命の私たち」(骨の教室)がありますが、その見どころを教えてください。

A.展示室8では、脊椎動物が教室の中に整然と座ってみなさんの来館を待っています。担任の先生になったつもりで教室に入ってみてください。生徒たちはどんな順番で座っているでしょうか?背の順や生まれ順ではありません。実際にミュージアムに来て、考えてみてください。ところで、最後の席に着席しているのはヒト。私たちヒトもまた脊椎動物の一員です。みなさんのお気に入りの一体を見つけてください。

Q そんな日下さんの専門は、縄文人の骨の研究と伺いました。どのような研究をされているのか、これからの抱負も含めて教えてください。

A.私の専門は自然人類学で、ヒトの骨の研究をしています。これまで、縄文時代の古人骨の研究をしてきました。骨に記録された安定同位体というものを測定することで、ある人が生前に何を食べていたのか、どこから来たのかについて調べることができます。また、縄文人には生前に歯を抜く習慣がありました。この歯の抜き方と、食べ物の関係を見つけました。これからは、静岡に暮らしていた昔の人々が、どのような物を食べていたのかを調べていこうと思っています。

Q 日下さんをはじめ、ミュージアムには異なる分野の個性豊かな研究者が揃っています。この環境は、学際的な意味で得るものがあるのでしょうか?

A.おっしゃる通り、とても面白いメンバーが揃っています。僕の役割は、このメンバーと分野を越えて研究をすることで、まだわかっていない「人と自然の関係」を解明することにあると思っています。例えば、魚×同位体、年縞×同位体といった具合に。また、ミュージアムは客員研究員制度を設け、他機関の研究者とも共同研究を推進します。静岡という場所を様々な角度から研究していくことで、新たな魅力を発見できると思います。ぜひ、これからのミュージアムの活動にご期待ください。

研究員最年少の日下研究員は、昨年4月にミュージアムに着任して以来、転居、結婚、そして二児(双子さん!)の父にと、人生の激動期を迎えています。開館まもなくのミュージアムにお越しの際は、是非励ましの言葉をいただきますようお願いいたします。

——— 次回は、“魚類博士” 渡川准教授です。

アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車でお越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ JR静岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚏 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル
- ・ [8-B乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車]

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行: ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

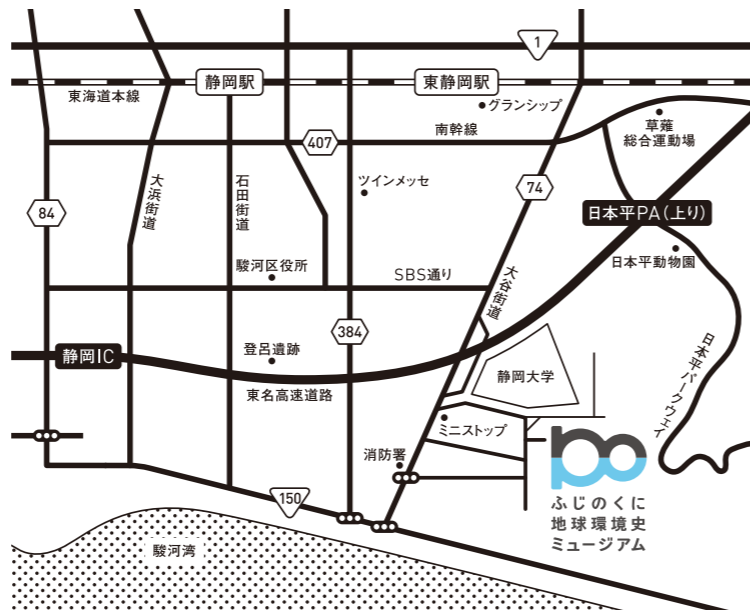
[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp

[ホームページ] www.fujimu100.jp

🐦 https://twitter.com/fujinokuni_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

□開館に寄せて □館内紹介 □ミュージアムダイアリー □研究者リレーインタビュー

[vol.003]



展示室10「ふじのくにと未来」

Photo: Nacása & Partners

開館に寄せて

「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を訪れて生きる力を獲得してほしい。みなさんの命はお父さんとお母さんからいただいたものです。この美しい生命世界では、君が生きているだけで尊いことなのです。地球上の生きとし生けるものがこんなにすばらしい生命世界を作り出し、必死で生き抜いている。人間もまたその生命世界の一部を担う存在にすぎないことをこのミュージアムの展示を見て知ってほしい。富士山や南アルプスと駿河湾と太平洋、さらにはそれらを結ぶ富士川・安倍川・大井川・天竜川。伊豆半島や浜名湖のある静岡県は際立って自然と人間が共存可能な場なのです。静岡県に生まれた人は幸福だ。こんなに美しい生命世界と光輝く命の水の循環の世界で暮らすことができる。教授や准教授・研究員、NPOの皆様・インタープリター・サポーターの皆様、そして、職員一同が皆様のお越しをお待ちしています。ミュージアムに来て無数の生命の輝きに触れて、生きる力を獲得して、未来の自然と人間が共存可能な100年後の世界の実現に向けて、さあ一歩踏み出そうではありませんか。

ふじのくに地球環境史ミュージアム館長

安田喜憲

